

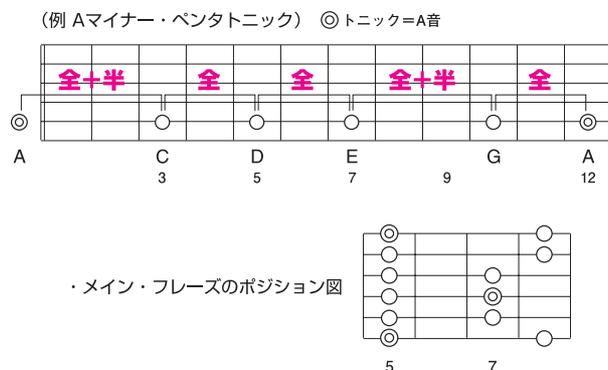
【注意点1】



知らなければ、モグリ!
ペンタを頭に叩き込め

“ロックと言えば、ペンタトニック!”と断言できるほど、ペンタはギタリストにとって重要なスケールとなる。このメイン・フレーズは、Aマイナー・ペンタトニック(5音階)で作られているので、まずはAマイナー・ペンタの構成と使用ポジションを覚えておこう(図1)。ちなみに、ペンタとは、ギリシャ語で“5”という意味になる。

図1 マイナー・ペンタトニック・スケールとは



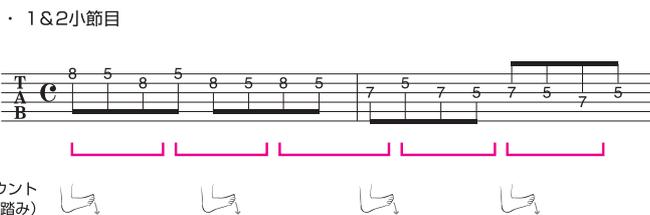
【注意点2】



音の区切りを意識しながら
リズムを正確に取ろう

メイン・フレーズは、3音をひとつのブロックにして下行するパターンになっている。3音で区切ることを意識しすぎると、誤って3連符で演奏してしまうことがあるので、1拍ずつのタイミングでカウントを取って、8分音符を正確にキープするように心掛けよう(図2)。弦移動も多いので、右手もスムーズに動かしてみしてほしい。

図2 メイン・フレーズの音の区切り方



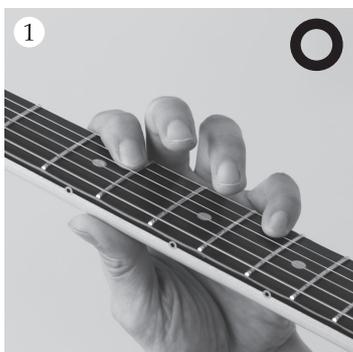
3音をひとつのブロックにして下行するラインとなる。

【注意点3】

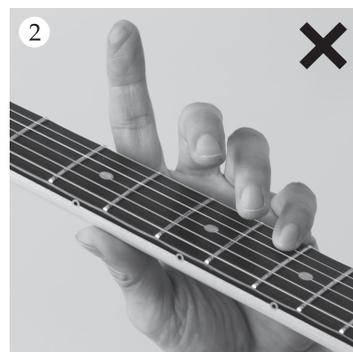


先の動きを見越して
押弦を行なうべし!

弦を滑らかに押さえていくためには、先の動きを見越したフィンガリングを行なう必要がある。例えば、メイン・フレーズ1小節目3拍目オモテのように2弦8フレットに弦移動した際には、8フレットと同時に5フレットを人差指で押さえておくといだらう(写真①&②)。こうすることによって、小指を離すだけで、次の人差指の押弦ができるのだ。



① メイン・フレーズ1小節目3拍目オモテ。2弦8フレットと同時に5フレットを人差指で押さえておこう。



② 小指と同時に人差指で2弦5フレットを押さえておかないと、次のフィンガリングがモタつくことがある。